

平成29年度 九州地区特定母樹等普及促進会議の概要

森林総合研究所林木育種センター九州育種場

1. 日 時：平成29年11月15日（水）10:30～12:00（会議）

13:30～15:00（現地視察）

2. 場 所：大分県玖珠土木事務所・大分水源林造成事業地
（大分県玖珠郡玖珠町）

3. 参加者：会議53名、現地視察52名

（九州森林管理局、大分西部森林管理署、九州育種基本区内の各県担当者、各県の認定特定増殖事業者、森林整備センター九州整備局、大分水源林整備事務所、森林総合研究所林木育種センター、林木育種センター九州育種場）

4. 概 要

【会議】

① 九州地区における特定母樹の普及状況

九州育種場から、間伐特措法の改正・特定母樹の指定基準等、特定母樹の指定数、基本方針の策定・特定増殖事業者の認定状況、特定母樹原種の配布状況について説明。

② スギ特定母樹の初期成長について

九州育種場から、九州各地に設定している共同試験地のデータを基に、特定母樹と在来品種との初期成長量の差の違いについて説明。

③ 水源林造成事業（九州整備局）における取組について

森林整備センター九州整備局から、各水源林整備事務所管内に設定した試験地の概要（特定母樹・エリートツリー等の成長）について説明。

④ 国有林野事業（九州森林管理局）における取組について

森林管理局から、平成27年度及び平成28年度の管内国有林におけるスギ特定母樹の植栽状況（2年で322千本）について説明。

森林技術・支援センターから、次世代造林プロジェクト試験地の概要、同地内に植栽した特定母樹の成育状況について説明。

⑤ その他の情報提供

（株）日本製紙から「日本製紙グループの特定母樹の普及の取組み」として、九州育種場から配布された特定母樹原種（穂木）をもとに育成した苗木で採穂園を造成したこと、在来品種よりも成長が良い系統が多いこと、今後14千本の採穂台木を造成するが、一般の樹苗生産者と協力して苗木生産することを説明。

⑥ スギ特定母樹の原種増産に向けた取組等

九州育種場から、特定母樹採穂台木の早期育成に関する取組・さし木増殖の通年実施・小型穂木によるさし木増殖・トレーサビリティによる品質管理等について、また、平成29年度に特定母樹申請予定の系統について説明。

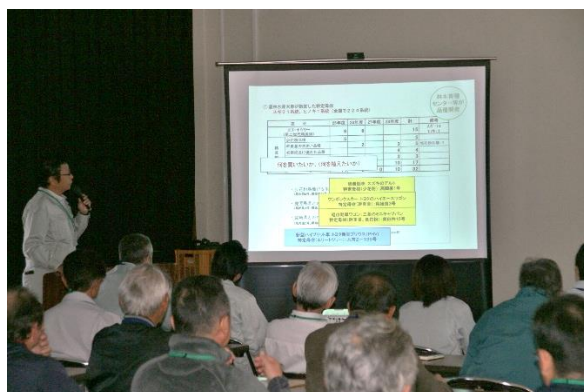
【現地視察】

森林整備センター九州整備局大分水源林整備事務所が造成・管理している共同試験地において、植栽されている特定母樹・エリートツリーの成長量を目で実感していただく事を目的として現地視察を行った。参加者からは次の様な質問・意見があった。

・特定母樹に指定されていない成長の優れた系統について、今後の申請予定があるのか。

- ・成長が良いので下刈りが不要ではないか。
- ・樹高が断幹に適した時期になってきたので断幹・整枝の手法について教えて欲しい。
- ・成長が良いと幹がやや曲がるが大丈夫か。

【会議の様子】



【現地視察の様子】

